

A. 日 時 2014年5月12日月曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査、他7名

D. 提出資料 (提出委員名も記入して下さい)

No. 06-01 : 第05回環境振動性能評価小委員会 議事録 (案)

No. 06-02-1 : 46<sup>th</sup> UK Conference on Human Response to Vibration, Provisional Programme

No. 06-02-2 : 47<sup>th</sup> UK Conference on Human Responses to Vibration, Provisional Programme

No. 06-02-3 : 48<sup>th</sup> UK Conference on Human Responses to Vibration, Provisional Programme

No. 06-03-1 : DEVELOPING EXPOSURE-RESPONSE RELATIONSHIPS FOR ANNOYANCE CAUSED BY VIBRATION FROM FREIGHT AND PASSENGER RAILWAY TRAFFIC、47<sup>th</sup> UK Conference on Human Responses to Vibration

No. 06-03-2 : NON-STIMULUS FACTORS OF IMPORTANCE WHEN CONSIDERING EXPOSURE-RESPONSE RELATIONSHIPS FOR ANNOYANCE FROM RAILWAY VIBRATION IN RESIDENTIAL ENVIRONMENTS、47<sup>th</sup> UK Conference on Human Responses to Vibration

No. 06-03-3 : HUMAN RESPONSE TO VIBRATION IN RESIDENTIAL ENVIRONMENTS、DEFRA PROJECT NANR209、University of Salford

No. 06-04-1 : Ground-Borne Noise and Vibration in Buildings Caused by Rail Transit、TCRP

No. 06-04-2 : High-Speed Ground Transportation Noise and Vibration Impact Assessment、U.S. Department of Transportation

No. 06-05 : 地震動の人体に及ぼす生理学的影響、日本建築学会計画系論文集、2014年3月

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 06-01 「第05回環境振動性能評価小委員会 議事録 (案)」について報告

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

2. 運営委員会報告

A) 2014年度大会について主査より報告

→ プログラム編成終了、環境振動分野は9月12日(初日)の午前

B) 若手研究者への褒章等について主査より報告

→ 環境振動分野は若手研究者の人数も少なく、設立の意図にそぐわないと思われる

### C) 他の委員会の活動について主査より報告

→ 環境振動制御・予測小委員会：過去の論文の要約を行っている（本小委員会からもアプローチを行えば情報提供可能か？）

→ 環境振動測定小委員会：これまでに計測を行ったデータの解析を行っている、大会や技術報告集に投稿することも検討中

→ 環境振動評価小委員会：居住性能評価指針改定小委員会に新委員が加わることとなった

## 3. 議論

### A) 資料 06-02 「Human Responses to Vibration, Provisional Programme」について主査より報告

→ 例年、環境振動分野に係る研究発表が数件程度なされている（全く無い年もある）

### B) 資料 06-03 について主査より報告

→ イギリスにおける環境省（環境・食料・農村地域省、DEFRA）からの委託研究でサルフォード大学が行った研究

→ 鉄道や建設振動を対象に社会調査を行った

→ 振動あたりの社会への影響（反応？）の度合いを調査

→ 振動に対する評価はどのような評価量（評価尺度）を用いることが良いのか？ ⇒ 最適な尺度は見つけられなかった

→ 不快に影響を与える要因 ⇒ 一日の時刻等も影響を与える

→ 鉄道種別によっても住民の反応が異なる（貨物列車のほうが同じ振動でも評価が低い）

→ 音と振動の複合効果に関してはまだ研究途上

### C) 資料 06-04 について主査より報告

→ アメリカでも同様の研究（社会調査）がなされている

→ アメリカにおける鉄道振動評価では、速度尺度で評価を行うことを推奨

→ 生活・文化等の差異によって振動への知覚閾が異なる（日本人を含むアジア系は振動に対して鋭敏であるとも言われている）

### D) 資料 06-05 「地震動の人体に及ぼす生理学的影響」について報告

→ 地震動の人体へ与える影響について、生理反応・心理反応に関して調査

→ 血圧、脈拍、唾液アミラーゼ反応の生理反応には振動曝露の有無に関し有意差は見受けられなかった

→ 高齢者・若年者ともに大きな差異は見受けられない

3. 次回以降の課題

- ※ 「居住性能評価指針」と「設計指針」の位置づけについて
- ※ 評価指針への提言
- ※ 環境振動に関するホットな話題を随時募集
- ※ 評価WGでの活動内容の報告
- ※ 以下担当者ごとに大会論文の中より興味のある項目を各担当者の立場から紹介
  - 担当委員：環境振動分野より

次回の当委員会は、2014年8月26日(火曜日)17時30分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(14部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードをお願いいたします。